

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

焼津福文共通信第46号

「焼津福祉文化共創研究会」事務局

〒425-0044 焼津市石津向町 15-17

百の木デイサービス石津内

Tel.: 054-623-3665 Fax.: 054-656-3731

編集委員 望月隆仁 河野恵介 原崎洋一 原崎幸子 平田厚

活動5年目に入った「焼津福祉文化共創研究会」の主な活動内容

本会の2023年度活動テーマは、「港地域のニーズ把握から“福祉文化としての港地域のご近所を描く”」。「活動の着眼項目」は、(1)世代や領域を超えて「身近な生活環境でのコミュニケーション力発揮の工夫」、「語れる環境」、「地域総合型学習」の醸成に努める。(2)常に、これまでの地域課題の整理に努め、地域社会に向けて「問題提起」をする場をつくる。(3)「地縁組織」と「志縁組織」の「協働による地域づくり」に努める。(4)地域課題解決に向けた「行政と市民の協働」の在り方を、日常生活を通じて働きかけていく。(5)「地域資源の発掘」に向けた、「専門性と市民性の融合」による「見える化」、「わかる化」に努める。(6)活動の維持のための「活動財源確保」に努める。(7)「若者の地域参加」と「高齢者の社会的自立(地域参加)」による「地域づくり」への試みを発信。(8)地域をトータルにコーディネートする機能を検証する、の8つを掲げている。

●具体的な活動内容

(1) 会議等 ①役員会の開催 ②定例研究会の開催 ③事業関連部会設置と開催

(2) 調査研究事業

- ①「地域ぐるみの居場所」検証事業（1年目活動継続事業）
- ②「ご近所福祉 その意識と実態調査」検証事業（2年目活動継続事業）
- ③「“福祉”ってなに？244名の子どもたちに聞きました調査」検証事業（3年目活動継続事業:小学生対象）
- ④「ホッとできる安心した地域づくりその意識と実態調査」検証事業（4年目活動継続事業）
- ⑤「地域課題解決と地域資源の発掘」研究協議（新規事業）
- ⑥「私にとって“ご近所”とは、その意識と実態調査」（新規事業：中学生対象）

(3) 研修事業

- ①「ご近所福祉検証学習会」の開催（継続事業）
- ② 地域をつなぐ協働研修会
- ③ 現場実践研修会・「若者発 近所福祉かるた」の活用による「近助」を学び合う。
- ④ 調査研究考察報告研修会
- ⑤ 「地域との共生」をテーマとする「会員レポート」（発表）の機会

(4) 広報事業

- ①「静岡福祉文化を考える会」ブログとのリンクによる本会ブログによる活動の発信。
- ②焼津福祉文化共創研究会通信の発行（原則、毎月1回発行、A4版、両面印刷）

(5) 関連団体との協働・連携



*令和4年度に開催した「みんなで創る福祉を学ぶ講座」会場に展示した本会の歩みと研修会場の様子

2022年度 焼津福祉文化共創研究会定例会「会員レポート」に学ぶ

2022年度の定例研究会では、会員の自由な意見、思い、これまでの実体験等を紹介した「会員レポート」をテーマに8回開催した。主な内容を掲載する。

- *手話との出会い、そして介護福祉の道を歩んできた今、いかに「若い」と向き合うか
- *「引きこもりの息子と実母の家族」の身近な事例から、近隣地域における支え合いを問う
- *市民と行政・社協との協働による地域課題解決を探る
- *67年の人生を振り返りながら、「地域の担い手」に求められるキーワードを語る
- *幼児教育に関わり、30年を振り返り、これからの地域との関わりへの思い語る
- *施設福祉時代(措置制度下)を回想する 「福祉は金持ちにはなれない、しかし“人持ち”で自分磨き」
- *過去の親戚家族における福祉ニーズを振り返って一公助に頼らず、身内福祉(自助努力)で問題解決一を探る
- *私の地域デビューのプロセスとこれからへの思い 一地域出番の声を掛けてくれた“人”がいた!

■2022年度「ホッとする安心した地域づくりその意識と実態調査」から見えたものは⑥

港地域の高齢者315名の回答をもとに考察した内容をシリーズで紹介。今回は、「高齢者の地域との関わり(意識)」を紹介する。次回⑦は、「高齢者の地域との関わり(実態)」、⑧は、「高齢者の地域参加の動向」、⑨は、「高齢者の地域環境」、⑩は、「総括」を順次紹介。

- (1) 約7割は「一人でも安心して暮らせる地域」と回答しているが、「一人でも安心して暮らせる地域ではない」回答が約3割ある。居住年数が短い層では、地域とのなじみのなさから安心ではない意識が伺えるが、居住年数が長いと、現状を踏まえようと、安心ではない状況の一面が伺える。
- (2) 地域の人との交流については、「地域の人々との交流は大切である」と総体的意識は伺える。特に、単身世帯では、強く感じている回答である。
- (3) 「“超高齢社会”の今の生活の支え」は、「家族の支え」が半数を占めている。ここでは、女性よりも、男性の方が、「家族の支え」の回答が多い。「自分自身での支え」は、単身世帯、女性の方が多く回答から、女性の自立心の高いことが伺える。
- (4) 「地域のコミュニティの考え方」について、本会のこれまでの調査結果(20歳以上対象の調査)からは、年々、希薄化の傾向が伺えるとしてきた。今回の高齢者からの回答では、「潤いのある生活を営む上で非常に重要な役割を持つ」が約5割と高い回答であった。高齢者層が、これからの地域コミュニティに期待する回答結果と伺えた。今後は、高齢者の積極的な地域参加、地域づくりに関わる働きかけを呼び掛けたい。
- (5) これから、参加してみたい地域活動は、生きがいを感じる「趣味や特技を生かせる活動」、健康維持のための「高齢者を対象にした健康交流の活動」が主にあげられているが、「特にない」の回答が15%ある。女性は男性よりも、また加齢とともに、積極的に「健康交流」をあげている。この結果をもとに、だれもが、地域参加できる環境整備を働きかけたい。

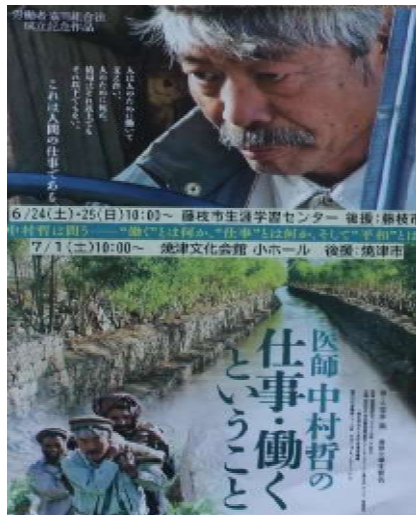


医師 中村哲 仕事・働くということ

映画上映会のご案内

- 令和5年7月1日(土)10:00 ●焼津文化会館小ホール
- 問い合わせ・申し込み (FAX052-222-3851) (TEL052-222-3850)
- 労働者協同組合ワーカーズコープ事業団東海事業本部

2020年に「労働者協同組合法」(働く人自らが出資し、事業の運営に携わる)が成立し、2022年に施行されたことを記念して本映画を企画制作。医師 中村哲氏は、35年間にわたり、アフガニスタンとパキスタンで、病や戦乱、そして干ばつ等で苦しむ人々に、活動を続けられましたが、無念の死を遂げられました。その、尊い取り組みを記録にまとめた内容です。この映画を通じて、地域社会に働きかけたい点は、「働く」「地域福祉一住民主体」「平和」と関係者は説明されています。



協働団体:静岡福祉文化を考える会
「静岡発 福祉文化の創造とは -福祉文化の原点を探る-」を研修テーマに「第1回 公開型研修会」開催

長引く、厳しいコロナ禍下から、少しずつ明るい見通しも見えてきた、4月22日に、静岡市清水区「寄ってっ亭」で、「静岡福祉文化を考える会」は、「第1回 公開型研修会」を開催した。“私にとって原点って?”をもとに、参加者が自分史を描くように自己紹介をし、「基調報告:地域活動の原点を問う」につなげ、「静岡福祉文化を考える会27年間の活動の原点を確認した。その中から、「地域活動における原点」を共有した。「若者発 近所福祉かるた」誕生のプロセスを紹介しながら、和やかに意見を交わした。「円卓トーク:私のご近所を点検する」では、「高齢者世帯を取り巻く事例」をもとに、意見を交わした。



焼津福祉文化共創研究会 事務局日誌拝見(4/1~6/1)

4/01 2023年度活動計画検討(財源確保検討)	4/22 静岡福祉文化を考える会 第1回公開型研修会開催
4/10 「研究会通信第44号」編集発行	4/29 「研究会通信第46号」編集発行
4/15 2023年度 4月(通算49回)定例研究会開催	5/20 5月(第50回)定例研究会開催
2023年度焼津市V連総会及び代表者会開催	5/22 労働者協同組合ワーカーズコープ事業団との意見交換
4/17 あしたの日本を創る協会へ本会活動状況を報告	5/30 焼津市社協へ「赤い羽根助成事業」申請書提出

「焼津福祉文化共創研究会」「静岡福祉文化を考える会」の活動状況を「QRコード」で確認してみてください! 「地方発 福祉文化の創造」をさらに発信続けています。*本会活動の問い合わせは事務局まで*



研究会QRコード



考える会QRコード